

大阪 さくやこの花館を訪問

(サボテンのコレクションが良かった。アリ植物の企画展もやっていました。)





花座をつくるサボテン（ちなみに唐辛子みたいなのが果実）



新しい園芸の楽しみ方

スペースが限られていてもあきらめない！
狭いおうちでも工夫すればたくさん！下は収納スペースになるよ！



このスペースだけで
約30種類以上の植物が！

※栽培状況により入れ替えることがあります。

ハエマンナム・ルリチアフルス





体と花のアンバランスさも魅力の1つ





サイカクの花（サボテンではない）



サイカクの花（サボテンではない）



「体がアリの巣！？アリ植物とは。」

植物が自分の体にアリの住まわせ、アリと植物、お互いに得する（共生）関係の事をいいます。

【共生】

アリと植物の共生関係については、主に3つに分けられます。

- ① 住まわせる ※住み家「**ドマティア**」と言います。
- ② 種を運ばせる
- ③ 蜜を与える ※花の外で蜜を出す「**花外蜜腺**」と、言います。

今回の展示では、

主に①の、**住み家を持つアリ植物**についてご紹介します。

しかし、実際は、それ以外の共生関係もあるそうです。



ドマティア

【種類】

この①の住み家を持つ植物は、
約700種（約160属50科）ほどであるとされていますが、
調査を続ければ約1150種もあると考えられています。

【共生の背景】

アリが植物を住み家にしだしたのは、植物の多様化（数が増え、たくさんの種類に分かれていくこと）にあります。

アリは「**白亜紀後期**」から多様化したと考えられ、
一方、植物はその前の「**白亜紀初期ごろ**」から、花を咲かせる植物（**顕花植物**）
の多様化が急速に広がったといわれています。

この、花を咲かせる植物の拡大により、草食性昆虫といわれる、植物を食べる昆虫も増加しました。
やがてその中から、食べられないよう、臭が刺がるアリを住まわせ、
体を守ってもらえるように、一部の植物が、アリが住みやすいように進化しました。
これが、アリと植物、お互いの協力関係の進化の機会を増やしたと考えられています。

※「**白亜紀**」：約1億4,500万年前から6,600万年前を指す

